

父親を教育現場へ

不審者対策や不登校、学級崩壊など学校をめぐる問題が深刻化する中、教育現場では「父母の協力が不可欠」として、保護者の参加を求める声が高まっている。札幌市内の学校PTAは、教育現場への関心が薄いとされる父親の参加を促そうと、父親を対象に学校祭の見学ツアーを行った。野球大会を開いて父親同士の親交を深めるなど、模索を続けている。

(大能伸悟)

◆学校祭染しむ

九月下旬、市立中の島中(豊平区)で開かれた学校祭。正面玄関のロビーに、生徒の父親が集まった。同校PTAが企画した「お父さんのための学校祭見学会」に参加する父親たちだ。

見学会は今年で二回目。参加者はわずか五人

PTA、見学会など企画

札幌市で交流模索

「深まる親子の対話」

だったが、学校祭のスケジュール発表や展示のほけ付けした男性は「最近仕事の間を縫って暇

約百五十人が交流を深め、大会後の懇談会では、親による学校支援グループ「おやじの会」が発足。業生の父親、教員も参加。会員は約四十人に増えた。三十一世代の働き盛りの会員が多く、イベントの打ち合わせは電子メールで行うなど工夫している。宮西勝広会長は

「おやじの会」は心強い」と話す。札幌市PTA協議会の藤原せい子事務局長は「学校と父母が連携して子供を見守るのが大切」と話している。父母が気軽に学校を訪れることができるような環境づくりの重要性を強調している。

か、図書館やコンピュータ室などの設備も見学した。

仕事の間を縫って暇な時間もなく、娘と話す時間もなかった。どうして学校の様子が見たかった」と息を弾ませた。

ほとんどの父親は、自中学校のPTA会長でも

区)では六年前、母親中心のPTAとは別に、父親による学校支援グループ「おやじの会」が発足。業生の父親、教員も参加。会員は約四十人に増えた。三十一世代の働き盛りの会員が多く、イベントの打ち合わせは電子メールで行うなど工夫している。宮西勝広会長は



教頭の案内で中学校を見学する父母ら。札幌市立中の島中

分が中学校を卒業してから初めての学校訪問だった。竹田英次さん(40)は「自分の中学生当時とは雰囲気はかなり違う」と驚いた様子。同校PTAの林寿正会長は「中学生は親と話しながら子育てが難しい年ごろ。父親が学校を見ることで、親子の対話も深まる」と期待する。

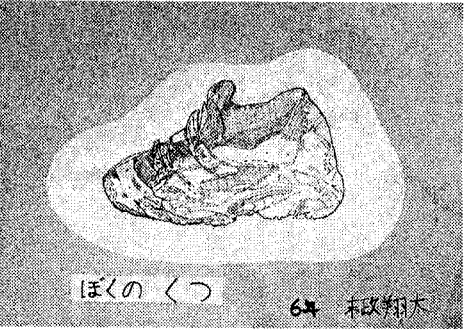
ある島本会長は「中学校に来るのは母親ばかりで、父親が来づらいイメージがある。中学校入学前から父親が交流すれば知り合いも増え、学校活動にもスムーズに参加できる」と期待する。

一方、市立舞似中(西区)では六年前、母親中心のPTAとは別に、父親による学校支援グループ「おやじの会」が発足。業生の父親、教員も参加。会員は約四十人に増えた。三十一世代の働き盛りの会員が多く、イベントの打ち合わせは電子メールで行うなど工夫している。宮西勝広会長は

「おやじの会」は心強い」と話す。札幌市PTA協議会の藤原せい子事務局長は「学校と父母が連携して子供を見守るのが大切」と話している。父母が気軽に学校を訪れることができるような環境づくりの重要性を強調している。

「おやじの会」は心強い」と話す。札幌市PTA協議会の藤原せい子事務局長は「学校と父母が連携して子供を見守るのが大切」と話している。父母が気軽に学校を訪れることができるような環境づくりの重要性を強調している。

学園ひろば



「ぼくのくつ」
末政 翔大=札幌市立中沼小6年

わたしの作品

「月」
札幌市立養生館小 夜たぞ、月
4年 大場 大起 びつくりするなよ、月
おーい、起きろ、月
お月見だぞ、月
おーい、起きろ、月
お月見だぞ、月
おーい、うさぎたち
お月見だんごを
いっしょに食べよう

